

## 平成27年度事業報告

### I. 事業の経過およびその成果

#### 1. 社員総会

第68回定時社員総会を2015年5月25日(月)に化学会館7階ホールで開催。社員総数227名のうち198名(出席者33名、有効委任状165名)が出席して会が成立。平成26年度会計報告(貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録)、理事・幹事選任に関して決議した。また、平成26年度事業報告、平成26年度名誉会員推戴について報告が行われた。

#### 2. 役員会等

##### 1) 理事会

平成27年度は、第624回(5/11)、第625回(5/25)、第626回(7/15)、第627回(10/19)、第628回(2/5)の計5回開催するとともに、メール審議によるみなし理事会を2回行った。

##### ①代表理事及び業務執行理事の選任

第68回定時社員総会(5/25)後の第625回理事会で、代表理事・筆頭副会長として黒田一幸氏、代表理事・常務理事として川島信之氏を選出した。尚、代表理事・会長の榊原定征氏は留任である。また、業務執行理事・副会長としては、留任である浅見正弘氏、茶谷直人氏に加え、新たに小坂田耕太郎氏、辻 康之氏、佐藤穂積氏を選出した。

##### ②公益法人としての内閣府への定期提出書類の提出

平成26年度事業報告、平成26年度決算に係る資料について、第624回理事会で承認し、第68回定時社員総会でそれぞれ報告・決議後、5月末に内閣府へ提出した。また、平成27年度理事について、第624回理事会で承認、第68回定時社員総会で決議後、第625回理事会で代表理事、業務執行理事の選任を行って、内閣府へ役員の変更届を提出した。

平成28年度事業計画及び予算について第628回理事会で承認し、2月末に内閣府へ提出した。

##### ③平成28年度事業計画、予算案

平成28年度予算案については、第626回理事会で、「基本的に損益ベースの考え方に基づいた予算とするが、中長期基本戦略達成のための必要投資については精査の上、特別要因として明確に区別すること、収入増・支出削減の施策の検討を行うこと、化学会館の大規模修繕費用の積立を増額し、将来のあり方を検討することなど」を骨子とする予算策定方針を決めて予算策定を行い、第628回理事会で最終案の承認を行った。平成28年度予算は、損益ベースで7,061万円の黒字となるが、これにはPacifichemの剰余金12,000万円が含まれており、単年度の実質収支は4,940万円の赤字となる。支部・部会での収支均衡、予実乖離の見直し、戦略支出、会館のあり方など今後、議論が必要。

平成28年度事業計画については、第628回理事会で承認された。

##### ④中長期戦略の改訂

平成21年に策定した中長期戦略の中間年にあたり、これまでの達成状況、環境変化等を基に改訂を行い、第624回理事会で承認した。強化すべき活動領域として、年会改革(質の向上、国際化)、ジャーナル改革、イノベーションに寄与する産学連携活動、人材育成と教

育普及活動の4項目、化学会の組織基盤の強化として、化学会を挙げた会員増強への取り組み強化、組織体制（委員会、小委員会等）の見直し、財務体質の強化、事務局機能の強化、化学会の多様化（性別、年齢、既存の専門領域を超えた活動の拡大）、提言・提案の仕組み作りの6項目を挙げた。

#### ⑤基本活動方針とその活動

定款に基づく化学会の中長期基本戦略、内外環境の変化、平成27年度の基本活動方針の進捗状況を踏まえて作成された平成28年度基本活動方針を第628回理事会で承認した。

- I. 化学会のグローバル化：①年会の英語化・国際化の一層の推進、②アジアを中心とした海外化学会との連携
- II. 産学連携活動の推進：①産業界ニーズ情報の収集・発信、②再教育を目指したイベント企画と集客力強化、③化学フェスタの事業基盤の強化
- III. ジャーナルの国際的ビジビリティの向上への科研費取り組みの加速：①J-stageから独自WEB SITEへの円滑な移行とWeb上での一体化の検討、②収益性も考慮したジャーナル戦略の実行、③会員全員の自慢できる化学会ジャーナルに向けての準備
- IV. 人材育成・教育普及活動の推進：①青少年化学教育から化学オリンピックまで教育ネットワークの構築、②化学教育人材の育成、③継続的な化学の認知度向上
- V. 組織基盤の強化：①きめ細かい会員サービス（現行会員、ジュニア会員、海外会員）、②長期的には、収益・コスト意識の徹底に基づく化学会の定常的な収益確立、③ダイナミックで透明性の高い事務局の再構築、④新規事業開始には、複数の既存事業を見直し・休止

#### ⑥平成28、29年度役員候補者について

平成28、29年度理事候補者、監事候補者については、1/15の役員候補者選考委員会を経て、第628回理事会で承認し、5/24の第69回定時社員総会に諮ることになった。

平成28、29年度会長候補者については、会員投票の結果、山本 尚氏を最終候補者として選出した。

#### ⑦重要な使用人としての支部長、部会長の承認

第628回理事会において、平成28年度の支部長として、田中俊逸氏、飛田博実氏、高田十志和氏、薩摩 篤氏、丸岡啓二氏、佐野庸治氏、永島英夫氏を選任した。また、部会長として、加藤 直氏、中山伸一氏、三原久和氏、横山憲二氏、田村 類氏を選任した。

#### ⑧各賞選考、フェロー選考、化学遺産認定

平成27年度の各賞候補者、フェロー候補者、吉野彰研究助成対象候補者については、規則に従って選考し、平成27年度第2回みなし理事会で承認した。また、化学遺産認定候補についても、規則に従って選考し、第628回理事会で承認した。

#### ⑨名誉会員の推戴

本会の名誉会員として細野秀雄氏、鈴木啓介氏を推戴することを第626回理事会で承認した。さらに、天野 浩氏を推戴することを第627回理事会で承認した。

#### ⑩2021年国際化学オリンピック招致

第 624 回理事会で、国際化学オリンピックを 2021 年に日本に招致することを決め、国際化学オリンピック運営委員会に提案し、承認された。

⑪ジャーナルプラットフォームの構築

化学会のジャーナルのプラットフォームを J-stage から Atypon Literatum に変更すること、およびそれに伴う初期開発費 1,300 万円、年間利用料 600 万円の追加予算を、第 624 回理事会で承認した。

⑫海外在住外国籍者向け新入会キャンペーン

海外、特にアジアからの会員を増やすため、入会金無料、1 年間で会費無料、2 年目以降の会費 3 千円(学生会員 1 千円)のキャンペーンを 3 年間行うことを、第 628 回理事会で決めた。対象者には日本語の会誌は送付しない。

⑬中高生会員制度

化学に興味がある、意欲が高い中高生を対象として、会員種別として「中高生会員」を新設することを第 628 回理事会で決めた。会費は 1 千円とし、会誌を送付しない代わりに中高生向けメルマガを配信する。定款の変更が必要なため、第 69 回定時社員総会で決議予定。

⑭規程類の制定・改訂

マイナンバー制度に関連して特定個人情報等取扱規程を制定し、第 628 回理事会で承認した。また、表彰規程の改訂(受賞対象論文の定義の明確化、特別顕彰の対象者の明確化)を第 624 回及び第 628 回理事会で承認した。社員総会運営規程の改訂(会長不在の場合の対応)を第 627 回理事会で承認した。

⑮高等学校化学で用いる用語に関する提案

2015 年 4 月公表の「提案(1)」に引き続き、学校教育現場で問題になりうる用語 11 項目について纏めた提案を第 1 回みなし理事会で承認し、公表した。

⑯国際交流関係

アジア国際シンポジウム Lectureship Awards、Nakanishi Prize の受賞候補者を第 627 回理事会で承認した。また、英国王立化学会の PCCP 賞の候補者を第 628 回理事会で承認した。

⑰会員関連

理事会承認事項である会員の入会の承認に関し、適時、理事会に報告することを条件に、常務理事に委任することを、第 628 回理事会で承認した。

⑱事務局関連

ジャーナルの国際情報発信力強化の人材として、新人 1 名の採用を第 627 回理事会で承認した。また、事務局の機能強化のため、新たに 4 名の採用について、第 628 回理事会で承認した。

2) 顧問会

10 月 19 日に 7 名の顧問(歴代会長)を招いて開催。顧問各位から貴重なご意見を伺った。

3) 相談役会

平成 27 年度も相談役会は開催しなかったが、現役の社長、会長が出席する日化協の理事会、日化協理事懇親会、新年の化学合同賀詞交歓会などの場で、化学会幹部との意見交換を行った。

た。このような化学企業トップとの意見交換の場を定例化していく。

#### 4) 支部長・部会長会

平成 27 年度は、3/28、7/15、2/5 の 3 回開催した。支部・部会に関しては、特に、年会の英語化・国際化、会員増強（法人会員、個人正会員の勧誘、海外在住外国籍者向け新入会キャンペーン、中高生会員制度）、CSJ 化学フェスタ、教育・普及活動（夢・化学-21、化学の日・化学週間）、ジャーナル戦略について、協力の要請を行った。

また、支部の事業計画及び予算については、例年、予算と実績の乖離が大きい傾向にあるため、これの是正、及び予算及び決算での収支均衡を改めて依頼した。

### 3. 運営会議関係

#### 1) 運営会議

平成 27 年度は 4/17、6/17、9/1、12/11 の計 4 回開催。主に理事会における審議案件について予備的検討を行うとともに、会の重要事項について審議を行った。

また、各委員会委員長、ディビジョン主査の承認を行った。

#### 2) 戦略企画委員会

平成 27 年度は、4/17、6/17、9/1、12/11 の計 4 回開催し、以下の検討を行った。

##### ① 科研費ベースのジャーナル戦略

平成 25 年度から 5 年間の科研費（国際情報発信力強化）、及び化学会からの戦略的支出を活用して、化学会で編集・出版を行っている欧文誌、速報誌を、自助努力により世界の一級学術誌と匹敵出来る学術誌とするための戦略を実行中。戦略企画委員会傘下にジャーナル戦略委員会（委員長：玉尾皓平前会長）を設けて、事業を推進している。編集体制の強化、著者マーケティング、ジャーナルレポート等を用いた情報発信、ジャーナルプラットフォームの見直し、Pachfichem における Editorial Meeting、ジャーナルの質の向上の取組みなど戦略的な活動を実施した。科研費の中間審査を受け、継続が承認された。

##### ② 年会の英語化・国際化

年会の英語化・国際化については、2015 年 3 月の第 95 春季年会から具体的なとり進めを開始した。第 95 春季年会では受賞講演、B 講演、博士後期課程以上の A 講演の英語化、ポスターの英語化を強く推奨し、講演の英語化率が前年の 8.8% から 23.2% と大幅に上昇した。平成 27 年度もさらに、会員への周知、外国人の参加促進・環境整備、英語プレゼンのスキルアップ企画などを実施し、第 96 春季年会では講演の英語化率が 30.2% とさらに向上した。

##### ③ 会員増強

減少が続いている会員の増強について議論を行い、対策に移している。まず、個人正会員増強のためのキャンペーンを教育会員に拡大して会員増を目指すこととした。また、海外、特にアジアからの会員増を目指し、英語の会員入会システムの構築を図るとともに、海外在住外国籍者に対する会費減額キャンペーンを起案し、実行に移しつつある。中高生会員制度についても検討を行い、実行に移すこととした。

一方、産業界の会員を繋ぎとめるため、会員にとって魅力あるコンテンツの発信を図るべく、産学交流委員会傘下に WG を設置して検討中。法人会員の増強のための企業トップ宛てのレ

ターを再度発送した。

#### ④中長期戦略の改訂

平成 21 年に策定した化学会の中長期基本戦略の見直しを行い、これまでの達成状況、環境変化を整理し、中長期基本戦略の改訂案を作成し、理事会に答申した。

#### ⑤アジア戦略

戦略企画委員会傘下にアジア戦略小委員会（委員長：岩澤康裕元会長）を設けて、FACS への対応、17ACC に向けた対応、アジア化学会との連携強化を検討した。

### 3) 広報委員会

広報委員会は日本化学会の情報発信力の強化を進めている。また日本化学会の活動について記者会見、ニュースリリース配布、ホームページへの新着情報アップを行っている。平成 27 年度は 3 月 13 日に記者会見（第 95 春季年会および第 6 回化学遺産認定）を行った。ニュースリリース 5 件、ホームページへの新着情報は 111 件。

### 4) 倫理委員会

昨年発生した元会員の研究費不正取事件に関し、司法の判決結果が出たため、倫理委員会で審議の結果、「無期限の資格停止処分」が妥当とする答申を会長宛てに行った。

### 5) 論説委員会

論説委員会は日本化学会が専門家集団として、社会に向けてより積極的に発言するため、化学、化学技術関連の時事テーマを随時とりあげ、それに対する見解を機関誌「化学と工業」および化学会ホームページに「論説」として掲載し、発信している。

平成 27 年度には論説委員会を 2 回開催し、執筆を依頼するテーマについて論議し、論説委員 10 名、ゲスト論説委員に順次執筆を依頼、掲載した。

### 6) 化学オリンピック支援委員会

化学オリンピック支援委員会は 2010 年に開催した第 42 回国際化学オリンピック日本大会の残余金を原資として、国際化学オリンピック大会に関する国内および国際的活動を支援するための事業を行っている。平成 27 年度は委員会を 3 回開催し、化学オリンピックの日本への誘致と、2021 年に開催決定後は、場所、日程、準備組織について協議を進めた。

## 4. 会務部門

### 1) 会務部門会議

平成 27 年度は、会務部門会議を 4 回開催した。会議では、主に、①規程、規則等の新設及び改訂、②日本化学会フェローの選考、③各賞選考委員会からの要望事項の対応、④中高生会員制度、⑤海外在住外国籍者の新入会キャンペーン、⑥会館管理・補修、⑦マイナンバー対応などについて議論した。以下にその概要を記した。

#### ①規程、規則等の新設及び改訂

特定個人情報取扱規程の制定を検討し、理事会に答申した。謝金支給規則コロイドおよび界面化学部会規則、会員の不正行為の調査・審理に関する要領の制定を行った。また、実態に即して、表彰規程、学術賞・進歩賞選考委員会規則、会長候補者選出のための会員投票実施要領、社員総会運営規程、会員要領の改訂を行った。

## ②日本化学会フェローの選考

平成 27 年度日本化学会フェローとして、次の各氏を選考した。各氏は理事会で承認され、第 96 春季年会会場（同志社大学京田辺キャンパス）で認定式が執り行われる予定。

魚崎浩平（物材機構）      太田信廣（台湾国立交通大）      尾崎幸洋（関学大理工）  
尾嶋正治（東大放射光）      香月義弘（福岡大理）      妻木貴雄（筑波大付属高  
徳丸克己（筑波大名誉）      安井昭夫（山陽技術振興会）

## ③各賞選考委員会からの要望事項の対応

平成 27 年度各賞選考委員会からの要望について審議した。学術賞・進歩賞の業績説明に來られなかった時のルール等について規則に追記することになった。

## ④海外個人正会員への論文誌 Web 版購読

これまで海外の個人正会員には論文誌 Web 版を購読する制度がなかったため、国内の会員と同様に購読出来る制度にすることとした。

## ⑤中高生会員制度

教育・普及部門と協議し、化学だいすきクラブとは別に新たに中高生会員制度を創設することを検討し、理事会に答申した。中高生会員に配信するメルマガの内容や配信方法について、傘下に WG を設置して、検討を行っている。

## ⑥海外在住外国籍者の新入会キャンペーン

海外特にアジアからの会員増強を目的として、会費の減額キャンペーンを行いたいという戦略企画委員会からの要請を受け、会員制度の観点から検討を行い、理事会に答申した。

## ⑦会館管理・補修

専門業者に依頼した化学会館の今後の補修費用は概算で 41, 200 万円と見積もられ、補修費を計画的に積み増す必要があることが分かった。来年度以降の会館補修費を 1, 000 万円積み増すことを理事会に答申した。一方、会館のあり方について検討を開始する必要がある。

## ⑧マイナンバー対応

マイナンバー制度に対応して職員および謝金支払者からマイナンバーを取得する必要がある、化学会での対応を議論した。特定個人情報等取扱規程を起案し、理事会に諮った。

## ⑨その他

上記の他、学振の卓越研究データベース対応、今後の会費のあり方（消費税アップへの対応）、名誉会員推戴、会員管理システム・会員サイトのリニューアル、国際会議規程の改訂などについて審議を行った。

## 2) 会員委員会

今年度は委員会を 5 回開催した。化学会の会員数は依然として減少が続いており、会員増強のための方策や会員メリットについて、種々議論した。会員増強については、新入会記念品として、お好きな元素記号入りマグカップを新入会個人正会員と紹介者に贈呈するキャンペーンを継続するとともに、対象を教育会員とその紹介者にも広げることを決め、年会会場で宣伝、周知を行った。また、海外在住外国籍者の新入会キャンペーン、中高生会員制度、法人会員増強レター等を検討した。会員メリットについては、化学会が提供できる有益なコンテンツを中心に議論を行っている。その他、入会システムの英語版の導入、会員制度のあり方などが議論された。

第 95 春季年会会場（日本大学理工学部船橋キャンパス/薬学部）で、代表正会員会議を開催した。

### 3) 役員候補者選考委員会

役員候補者選考委員会において、平成 28 年度新任理事候補者 13 名と新任幹事候補者 2 名を出し、理事会に答申した。

### 4) 各賞選考委員会

各賞選考委員会において、平成 27 年度受賞候補者を選出し、理事会に答申され、承認された。第 96 春季年会会場（同志社大学京田辺キャンパス）で表彰式を執り行う予定。

#### 【日本化学会賞】 6 件

神戸宣明(阪大院工)	小杉信博(分子研)	中條善樹(京大院工)
西原 寛(東大院理)	三澤弘明(北大電子研)	山口雅彦(東北大院薬)

#### 【学術賞】 9 件

磯辺寛之(東北大院理)	栄長泰明(慶應大理工)	片山佳樹(九大院工)
木口 学(東工大理工)	内藤俊雄(愛媛大院理工)	中井浩巳(早大理工)
松浦和則(鳥取大院工)	森田 靖(愛知工大工)	山口茂弘(名大トランス)

#### 【進歩賞】 10 件

井上圭一(名工大院工)	緒明佑哉(慶應大理工)	大松亨介(名大トランス)
小林浩和(京大院理)	坂本良太(東大院理)	原野幸治(東大統括プロジェクト)
平田修造(東工大院理工)	平野康次(阪大院工)	南 篤志(北大院理)
本倉 健(東工大院総合)		

#### 【女性化学者奨励賞】 2 件

鳴瀧彩絵(名大院工)	松島綾美(九大院理)
------------	------------

#### 【化学技術賞】 1 件

島 基之, 杉江紀彦, 草開一憲, 中川大樹, 千葉 隆(JSR)

#### 【技術進歩賞】

該当なし

#### 【化学教育賞】 1 件

齋藤 潔(桐蔭横浜大医用工)

#### 【化学教育有功賞】 4 件

佐々木克敬(多賀城高), 瀬川 透(鶴岡高専), 田村定義(慶應義塾女子高),  
林 正幸(元一宮北高), 堀川理介(大阪教育大付属高)

#### 【化学技術有功賞】 1 件

猪狩佳幸(東北大多元研)

#### 【功劳賞】 1 件

多田啓司(旭化成)

### 5. 研究交流部門

平成 27 年度は部門会議の開催なし。

#### 1) 学術研究活性化委員会

平成 27 年度は会議を 1 回開催し、以下を検討した。

##### ① 第二次先端ウォッチング調査

『第二次先端ウォッチング調査』は、複数の化学関連領域にインパクトを与え、新領域への

発展が期待されるテーマについて調査を行っている。平成 27 年度は「配位アシンメトリー：非対称分子設計と異方集積化に基づく新物質科学」（提案者：山下正廣委員）を承認し報告書を作成した。第 96 春季年会でイブニングセッションが実施される。

#### ②中長期テーマシンポジウム

中・長期視点から特別企画を継続的に春季年会実行委員会に提案しており、第 96 春季年会では以下 6 件のシンポジウムが実施される。「ケミカルバイオロジーの新展開 ―機器分析とライフイノベーション」、「分子設計と分子技術：その創り出す新しい世界」、「複雑系のための分子科学 ―新しい分子機能の創成にむけて」、「再生可能エネルギーの展望：太陽電池と人工光合成のスパイラルアップ」、「Organs on a chip の最新動向と生体分子科学との接点を求めて」、「元素戦略：未来へ向けて」

#### ③アジア国際シンポジウム

春季年会の活性化を目的としてアジア地域の若手研究者を招聘して国際シンポジウムを開催しており、第 96 春季年会では 5 ディビジョン（物理化学、理論化学・情報化学・計算化学、光化学、錯体化学・有機金属化学、ナノテク・材料化学）による 4 つのシンポジウムで 9 名を招聘して開催する。なお、初の試みとして、物理化学ディビジョンと理論化学・情報化学・計算化学ディビジョンの合同シンポジウムは分子科学会との共催シンポジウムとして開催した。

#### ④年会の在り方について

アジア国際シンポジウムの他学会との共同開催について検討し、第 96 春季年会では試行として、物理化学ディビジョンと分子科学会の共催で行うことにした。

### 2) ディビジョン運営委員会

平成 26 年度は会議を 2 回開催。第 96 春季年会でのアジア国際シンポジウム開催ディビジョンについて検討した。現在約 21,500 名の会員が 21 ディビジョンに登録している。

### 3) 春季年会実行委員会

#### ①第 95 春季年会 (2015)

第 95 春季年会（実行委員長・西原寛東京大学理学研究科教授）を 3 月 26 日（木）～3 月 29 日（日）の 4 日間、日本大学理工学部船橋キャンパス／薬学部（千葉県船橋市習志野台）で開催した。参加者数は 8,257 名（第 94 春季年会・名古屋大学、8,288 名）、講演数は 5,795 件（同 5,859 件）であった。

#### ②第 96 春季年会 (2016)

第 96 春季年会（実行委員長・三浦雅博大阪大学工学研究科教授）は 3 月 24 日（木）～27 日（日）の 4 日間、同志社大学京田辺キャンパス（京都府京田辺市）で開催する予定。

### 4) 部会・研究会・新領域研究グループ

① 研究会：「低次元系光機能材料」、「分子アーキテクニクス研究会」の 2 つの研究会がシンポジウム等を実施した。

② 新領域研究グループ：「有機合成を起点とするものづくり戦略」、「液晶相高密度エネルギーナノ反応場」、「分子統計化学」の開拓 ～溶液とソフトマテリアルとの橋渡し」、「精密物質変換のための分子空間化学」の 4 研究グループがシンポジウム等を実施した。

### 5) 国際交流委員会



#### ① 日中若手化学者フォーラム

2009年に締結された日中国際協力協定に基づき、第5回日中若手化学者フォーラムを95春季年会2日目の2015年3月27日に開催した。テーマは“Molecular Activation Directed toward Straightforward Organic Synthesis”、日本側からはリーダーである中尾佳亮(京大院工)と山下誠(中央大理工)、鷹谷 絢(東工大院理)、Laurean Ilies(東大院理)、山口潤一郎(名大院理)、鳶巢 守(阪大院工)の6名が、また中国側からはリーダーのZhang-Jie Shi(北京大)とAiwen Lei(武漢大)、Qian Zhang(東北師範大)、Ning Jiao(北京大)、Shang-Dong Yang(蘭州大)、Guangxin Liang(南開大)の6名、合計12名の若手研究者がそれぞれ約30分の英語による講演を行った。いずれの講演者も、有機合成化学および有機金属化学分野で世界的に活躍している若手研究者であることから、非常に高水準の研究発表・研究討議が行われた。なお本フォーラムには、中條善樹・筆頭副会長(京大院工)、茶谷直人・副会長(阪大院工)、川島信之・常務理事が出席した。

#### ② 日英シンポジウム

日本化学会と英国王立化学会は、第6回日英シンポジウム(The 6th RSC-CSJ Joint Symposium)を第95春季年会2日目の2015年3月27日に開催した。

今回のシンポジウムでは、“Advanced Measurements for Chemistry”をテーマに取り上げ、Stephen R. Meech(Univ. East Anglia, 超高速分光)、田原太平(理研, 超高速分光)、Karen Faulds(Univ. Strathclyde, 表面増強ラマン分光)、内橋貴之(金沢大, 原子間力顕微鏡)、Jushua B. Edel(Imperial College, 単一分子センシング)、多田博一(阪大, 単一分子伝導測定)、Jonathan P. Reid(Univ. Bristol, アエロゾル粒子分析)、坂井南美(東大, 天文学)の8名が講演をおこなった。講演で報告された先進計測は多岐にわたっており、様々な分野において計測研究が勢力的に進められていることが良くわかった。シンポジウムの終了後には、川島信之常務理事とRSCのRobert Parker CEOの間で両学会間の協力協定延長に関する調印式が行われ、今後ますます両学会の協力関係を強化していくことが確かめられた。

#### ③ 中西シンポジウム

1996年に日米両化学会で締結された二国間協定に基づき実施。コロンビア大学の中西 香爾 センテニアル教授の名を冠した「中西シンポジウム」が設置され、有機化学、生物有機化学で顕著な業績をあげ、国際的協力研究を推進した研究者を日米化学会が交互に選考し、日米化学会の名を刻した「中西メダル」を授与している。本年はACSが選考を担当しACS年会で授与式が行われ、Dr. Fred W. McLafferty, Cornell Universityに賞が授与された。平成27年度は日本が選考委員会を発足させ選考手続きを行う予定。

#### ④ CS3 (Chemical Science and Societies Summit)

独、英、中、米、日の化学会およびFunding Agencyが連携して、喫緊のテーマに絞り、世界の第一線の化学者を集め会合を行なう。本年度は第2ラウンドのスタートの年であり、開催地を第1ラウンド初回開催地であるドイツに戻し、ドイツ化学会が主催して2015年9月14~18日にライプツィヒで「Chemistry and Water (化学と水)」を主題に開催された。日本からは、リーダーの田尾博明(産総研)をはじめ、田中宏明(京大)、柴田康行(国立環境研)、辺見昌弘(東レ)、駒井 武(東北大)、池 道彦(阪大)、永野智己(JST)、川島信之(日本化学会)の8名が参加した。なお、今回からJSPSに代わりJSTが将来的な化学分野の研究領域・戦略の検討や、国際コミュニティ・ネットワーク形成に資することを目的に参画することとなった。水問題の解決には多領域に渡る研究が必要であり、

膜などの材料科学, 分析化学, 化学工学, エネルギー関連化学, 分離・精製など, 化学会に関わる研究分野が多いことから, 学際研究に重要な貢献が必要であると再認識した有意義な会合となった。次回は2017年中国開催予定。

⑤ FACS (アジア化学会連合)関係

日本開催予定の17ACC(第17回アジア化学会議、2017年・札幌)について、開催を辞退することをFACSに連絡した。FACSにて後任の開催地を選考中。

⑥ IUPAC (国際純正・応用化学連合)関係

IUPAC 賛助会員委員会を12月2日に開催。IUPACの各ディビジョン・委員会の日本委員に出席願ひ、活動報告を行った。賛助会員委員会の在り方について、WGを発足させて今後の組織や進め方について検討を行うこととなり次回の賛助会員委員会の開催までに規則改定や会費に関する考え方をまとめることとなった。113番元素の日本命名権獲得に伴い命名法委員会など関連委員会と協調し、広報などの面で本会として可能な支援を行う予定。

⑦ 環太平洋国際化学会議(PACIFICHEM)

5年に一度の世界化学界の一大イベントである環太平洋国際化学会議2015(Pacificchem2015)が、2015年12月15日～20日の6日間、ハワイのホノルルで開催された。なお、初回の1984年の開催から数えて今回が第7回目の開催であり“Networking-Building Bridges across the Pacific”のスローガンのもと16,559件の講演が6日間にわたって行われた。最終日時点で世界71カ国・地域からの参加者総数は15,736名(前回比、26%増)。今回のホスト学会は米国化学会であり、Peter J. Stang 教授(ユタ大学)が組織委員長を務めた。日本からは、中村栄一教授(東大)が副組織委員長を務め、山内薫教授(東大)、高原淳教授(九大)、北川宏教授(京大)、川島信之常務理事(日本化学会)が国際組織委員として参画し運営にあたった。次回2020年は本会がホストを務める。

⑧ 命名法専門委員会

委員会を開催し、2013年のIUPAC命名法変更に伴う訳本の翻訳ならびに既刊の化合物命名法の改定を行った。また、会員および一般の方々からの命名法および関連する事柄に関する質問や指摘に対応した。

⑨ 原子量専門委員会

2015年版の「原子量表」を2015年化工誌・化教誌4月号に掲載した。また、2016年度版の「原子量表」を作成した。2016年化工誌・化教誌4月号に掲載予定。

⑩ 単位・記号専門委員会

「化学で使われる量・単位・記号」2015年版を2015年化工誌・化教誌4月号に掲載した。また、2016年版の更新を行った。2016年化工誌・化教誌4月号に掲載予定。また、委員長ならびに委員が全面的に交代した。

⑪ 主催国際会議

平成27年度は開催なし。

⑫ PCCP 賞

英国王立化学会から本会に対する協力要請に基づき、2007年よりRoyal Society of Chemistry, PCCP (Physical Chemistry Chemical Physics) and Faraday Discussion の“PCCP Prize”受賞候補者選定について、各ディビジョンから推薦してもらい、3名の若手研究者を選定した。今回第10回目となる受賞者は下記の通り。また授与式は第96春季年会会場において行われる予定。

■伊藤 良一氏 東北大学WPI-AIMR/JST さきがけ研究者(兼任)

■須田 理行氏 分子科学研究所・協奏分子システム研究センター 助教

■邨次 智氏 名古屋大学大学院理学研究科物質理学専攻(化学系) 助教

## 6) 化学遺産委員会

- ①化学・化学技術の分野で大きな業績を残された諸先達にインタビューを行い、それを映像と音声および冊子体で後世に残す事業[化学語り部・オーラルヒストリー]  
平成 27 年度は園田 昇先生と作花濟夫先生のインタビューを行った。
- ②化学・化学技術史に関する一般市民への啓発事業  
第 10 回化学遺産市民公開講座を第 96 春季年会会場において、第 7 回認定の内容をテーマに実施する予定。(2016 年 3 月 26 日、同志社大学京田辺キャンパス)
- ③「化学遺産認定制度」の実施  
第 7 回化学遺産として以下の 5 件を認定した。2016 年 3 月に記者会見を行い紹介するほか、第 96 春季年会における表彰式で認定証を贈呈する予定。
  - 認定化学遺産 第 034 号『日本の写真化学の始祖「上野彦馬」関連資料』
  - 認定化学遺産 第 035 号『明治期日本の化学の先駆者・化学会初代会長 久原躬弦関係資料』
  - 認定化学遺産 第 036 号『野副鐵男の化学遺産—非ベンゼン系芳香族化合物資料と化学者サイン帳』
  - 認定化学遺産 認定化学遺産 第 037 号『日本の高压法ポリエチレン工業の発祥を示す資料』
  - 認定化学遺産 第 038 号『日本の近代的陶磁器産業の発展に貢献した G. ワグネル関係資料』

## 7) 男女共同参画推進委員会

女性化学者奨励賞の候補者の選出を行った。第 16 回シンポジウム“男女が共に働く豊かな多様性社会 ～あなたのキャリアパスを考える～”を企画し、第 96 春季年会会場(同志社大学京田辺キャンパス)で開催予定。男女共同参画学協会連絡会に委員を派遣して活動を行った。

## 8) 環境・安全推進委員会

平成 27 年度は 2 つの小委員会で以下の講演会を実施した。

- ① 教育小委員会  
環境教育講演会(2015 年 8 月 6 日) 水素社会は到来するのか? 参加者 43 名
- ② 防災小委員会  
化学安全スクーリング(2015 年 8 月 10-11 日) 化学実験室における安全管理指導者の養成。  
参加者 40 名

## 6. 学術情報部門

### 1) 学術情報部門会議

平成 27 年度は学術情報部門会議の開催は無し。

### 2) 化工誌編集委員会

例年通り 2 回開催し、企画のアイデアや編集方針を打ち合わせた。

#### ①化工誌編集幹事会

委員会開催回数 : 編集委員会 2 回、幹事会 12 回。

発行状況 : 総頁数 1,160 頁 総発行部数 : 302,250 部

「化学と工業」誌の内容の充実を図るべく、幹事会を毎月開催し、各号の企画案および

Overview について討議した。

## ② 広告小委員会

委員会開催回数： 6 回

明報社とスプラウトの 2 社体制で「企業情報」、「企業情報」のウェブ版「ケミカルリクルート」、「大学院入試案内」並びにタイアップ広告企画 Gallery などを行った。

## 3) 欧文誌編集委員会

委員会開催回数： 本委員会 2 回、幹事会 12 回

発行状況： 論文掲載 204 件、総頁数 1,665 頁、総発行部数： 18,240 部

- ・良質な Accounts 論文を増加させる方策として分野別 Accounts として執筆依頼を昨年引き続き継続している。C-C bond Formation, Nanospace Materials, Elements Science 等の分野で実施した。
- ・注目論文を集め WEB 上で公開するバーチャル論文集として「BCSJ Diamond Collection」をスタートさせた。現在 Nanospace Materials 分野でゲストエディターによる特集を公開中である。
- ・国際化を目的とし、海外審査員の比率を上げる取り組みを継続した。海外依頼率は 30% 程度迄向上した。(目標：30%)
- ・年会の委員会企画として「CSJ ジャーナルフォーラム」を継続して開催した。

## 4) 速報誌編集委員会

委員会開催回数： 幹事会 1 回

発行状況： 論文掲載 572 件、総頁数 1803 頁、総発行部数： 20,400 部

- ・国内外の著名、新進気鋭の研究者や新学術領域代表等への Highlight Review への執筆依頼を継続し、投稿頂いた。
- ・WEB で特定の研究領域にスポットを当て発信していく「Focus Collection Site」を昨年、新設したが、昨年選定した 2 分野 (Perovskite/Solar Cell, Coordination Programming) に加え新たに 2 分野 (Catalytic C-H Activation, Drug Delivery) を追加し 4 領域を積極的にアピールしている。
- ・トムソンロイターのメールサービスを有効に活用すると共に、化学会独自のメール配信サービスを充実させ、フォーカスを絞ったメール配信を継続している。本年度は 8,000 件以上の配信を行った。

上記 3)、4) の委員会に関しては、平成 25 年度から 5 年間の科研費 (国際情報発信力強化)、を活用して、両誌の国際的なビジビリティを向上させる取り組みを行っている。両誌の運営に関してはジャーナル戦略委員会 (委員長：玉尾皓平前会長) を設置し、連携した強化活動を行っている。電子ジャーナルを登載するプラットフォームを強化する開発を本年度着手し、進めており、2016 年半ばには完成予定である。

## 7. 産学連携部門

### 1) 産学交流委員会

産学交流委員会では、傘下に 4 小委員会を設置して産学連携事業を企画・実行するとともに、幹事

会および運営会議からの付託事項(次年度の産業界選出役員候補者の推薦、化学技術賞等の受賞候補者推薦など)および関係委員会からの協力要請事項への対応を行った。また、前年度からの申し送り事項である産学交流事業の活性化について「小委員会見直しWG」と「産学活性化WG」を設置し、各小委員会活動の一層の効率的運用と、会員ニーズと合致する産学交流活動の在り方について審議を重ねた。

#### ①ATP 企画小委員会

春季年会における産官学の学術交流および連携強化のための事業の企画・実施、および優秀講演賞(産業)の審査・選考を任務とする小委員会である。この小委員会から春季年会実行委員会傘下の「ATP 小委員会」に委員を派遣する形をとって、春季年会 ATP の企画・実施を担っている。日本大学理工学部船橋キャンパス/薬学部で開催された第 95 春季年会では、ATP セッション、ATP ポスター、ATP 交流会を実施した。ATP ポスター107 件のうち審査申請された 63 件から優秀講演賞(産業)の審査・選考を行い、受賞 3 件を決定した。同志社大学京田辺キャンパスで開催される第 96 春季年会でも ATP セッション、ATP ポスター、ATP 交流会を企画して準備を進めており、ATP ポスター申込み 166 件のうち審査申請された 106 件から審査・選考を行う予定である。

#### ②教育企画小委員会

産業界所属の研究者・技術者、および産業界を目指す学生の教育に関わる事業の企画・実施を役割とする委員会で、基礎技術力の向上を目的とする「化学技術基礎講座」を企画・実施している。本年度の実績は下表の通りである。

開催日	講座名	主査	参加者
7/23-24	高分子化学－高分子の基礎から応用・加工まで－	中條善樹	57 名
7/30-31	電子部品・材料の物性化学－最先端産業を支える電子・光学材料開発に必須の基礎をマスターしよう－	藤岡 洋	61 名
10/8-9	製品開発に必要な有機合成化学の基礎	岩澤伸治	39 名
11/12-13	知っておきたい化学プラントの基本原則、工業化プロセスの要諦を学ぶ －化学技術者のための化学工学－	霜垣幸浩	49 名
11/19-20	高分子の構造物性相関解明のためのキャラクタリゼーション講座 －複雑な構造もやり方一つでここまで分かる！入門から応用まで徹底講義－	田代孝二	41 名

#### ③懇話会企画小委員会

産学官の学術交流の場としての R&D 懇話会(個人会員 26 名、法人会員 29 社)の企画・実施を任務とする。会員の研究会・勉強会として、トピックステーマでの講演と交流会から成る「R&D 懇話会定例会」を 6 回、最先端技術を半日で紹介する「技術開発フォーラム」を 1 回開催した。

開催日	講座名	参加者
4/3	有機太陽電池の最新動向	16 名
5/8	有機電子材料化学の最新動向	20 名
6/5	スピントロニクス科学と化学 基礎から応用まで	27 名
9/11	フォノンエンジニアリング～ナノスケール熱制御とそのための材料開発～	36 名
10/2	富士フィルムの新規事業創出 －見学と講演－	38 名
11/6	「技術開発フォーラム」安全管理 －化学プロセス・プラントにおける安全を考える－	56 名
12/4	固体イオニクス～基礎から新しい応用まで～	25 名

#### ④人材交流小委員会

産学の人材交流に関わる事業の企画・実施を担当する。「就職交流会」は企画を充実、参加大学、

企業の増加を図った(34 大学、40 企業から合計 116 名参加)。「博士セミナー」は ATP の企画のひとつとして実施した。また外部組織による化学技術者教育など人材教育に関わる活動へ協力した(JABEE への委員派遣および日本工学教育協会の幹事学会を務めた)。

#### ⑤協力委員制度

本会から配信する産学連携関連情報の社内周知を任務とする協力委員は、10 口以上の法人会員 61 社(本年度末時点)から推薦をいただいている。未回答の 15 社に加えて、10 口未満の法人会員(約 300 社)に対する推薦要請を引き続き継続していく必要がある。

#### 2) 化学フェスタ実行委員会

CSJ 化学フェスタは「産学官の交流深耕」と「化学の社会への発信」を趣旨として開催している。第 5 回 CSJ 化学フェスタは 2015 年 10 月 13 日(火)～15 日(木)の 3 日間、東京・江戸川区のタワーホール船堀で開催し、3,070 名が参加した。全国から 1,000 名を超える応募があった「学生ポスター」や新企画を含む喫緊の技術課題について講演、論議する「テーマ企画」をはじめ、産学官の団体・機関が企画する「コラボレーション企画」、「産官学 R&D 紹介企画」など多彩なプログラムが行われ、まさに産官学の交流を促進することができた。第 6 回 CSJ 化学フェスタは 11 月 14 日(月)～16 日(水)の開催を予定しており、産学官 80 名以上の実行委員会を編成、企画等の準備を進めている。

#### 3) 吉野彰研究助成委員会

平成 26 年度から吉野彰研究助成委員会を発足した。平成 27 年度の研究テーマは、『 $\text{Li}_2\text{O}_2$ 、 $\text{LiO}_2$  等の Li 高級酸化物の物理的・化学的特性解明の深化』とし公募を行った。委員会での審議の結果、平成 27 年度吉野彰研究助成対象者として日比野光宏 氏(東京大学大学院工学系研究科応用化学専攻、研究テーマ：遷移金属をドーピングした酸化リチウムにおける電気化学的酸化による過酸化生成反応の解明)を決定した。助成は平成 28 年度より行い、第 96 春季年会における表彰式で認定証ならびに助成目録を贈呈する予定。

#### 8. 教育・普及部門

教育・普及部門は学校教育の充実、化学の普及、会誌「化学と教育」の一層の充実を活動の 3 本柱として、「学校教育委員会」「普及・交流委員会」「化学と教育編集委員会」「化学グランプリ・オリンピック委員会」の 4 委員会で構成されている。また日本化学会、化学工学会、日本化学工業協会、新化学技術推進協会と共同で 10 月 23 日を「化学の日」、10 月 23 日を含む一週間を「化学週間」と制定、化学の理解増進を図る活動に取り組んでいる。

#### 1) 学校教育委員会

大学入試問題検討小委員会、化学教育カリキュラム構築小委員会、マイクロスケール化学実験小委員会、科学用語検討小委員会、新定番化学実験 WG の 4 委員会、1WG で構成されている。

##### ①大学入試問題検討小委員会

化学と教育誌 2015 年 8 月号に平成 25 年度大学入試問題検討結果を「化学の大学入試問題を考える」を掲載した。

##### ②化学教育カリキュラム構築小委員会

カリキュラム原案の作成を進めている。平成 28 年度に WEB にて公開する予定である。

##### ③マイクロスケール化学実験小委員会

マイクロスケール実験キットを用いて小学生向けおよび教員向けの化学実験教室を開催し、普及活動に取り組んでいる。今後はマイクロスケールの手法も含めて、広く知られていない新しい実験手法、有効な実験手法を普及させることを任務とすることを決定、新しい活動を進めていく予定である。

#### ④化学用語検討小委員会

化学用語検討小委員会では高等学校教育現場で問題となっている用語について教科書会社の協力を得ながら抽出し、望ましい用語、使い方について検討を進めている。平成 26 年度に「高等学校化学基礎」に掲載されている 15 語について「高等学校化学で用いる用語に関する提案 (1)」をまとめたのに続き、平成 27 年度は「高等学校化学」に記載されている 9 用語、1 表現法、1 法則名の 11 語について高等学校化学で用いる用語に関する提案 (2)」をまとめた。文部科学省への説明、メディアへのプレスリリース、ホームページへの掲載、「化学と工業」誌、「化学と教育」誌への掲載などを通じ周知徹底を図る予定である。

#### ⑤新定番化学実験 WG

化学実験の手引書である「新定番化学実験」の編集を進めている。平成 27 年度に発行、無料頒布する計画である。

### 2) 化教誌編集委員会

編集幹事会、レーダー小委員会、講座小委員会、実験の広場小委員会、産学連携小委員会、投稿小委員会を適時開催し、「化学と教育」誌を年間 12 号編集・刊行している。各企画のほか最近の話題などを適時掲載するなど誌面の充実を図る一方、教育会員の拡大などによる読者の増加に取り組み、化学教育の質的向上に向けた改革を進めている。平成 27 年度は投稿論文の査読体制の厳密化と迅速化、新規企画の検討など引き続き、誌面改革と制作体制の改善、改革を実施した。

また高等学校理科教員に「化学と教育」誌の周知、利用拡大を図るため、青森県で開催された全国理科教育大会や研究会に参加、広報活動を行った。

### 3) 普及・交流委員会

化学教育フォーラム企画小委員会、国際関係小委員会、化学だいすきクラブ小委員会、実験体験小委員会、クイズショー小委員会の 5 委員会で構成され、化学の普及活動を進めている。このほかサイエンスアゴラ、化学の日など化学の理解を目的にさまざまな社会と連携し、積極的な活動に取り組んでいる。

#### ①化学教育フォーラム企画小委員会

春季年会で化学教育に関するシンポジウムを開催している。平成 28 年度は同志社大学で行われる第 96 春季年會中の第 23 回化学教育フォーラムで「化学教育におけるアクティブラーニング」をテーマに開催予定。

#### ②国際関係小委員会

日本、韓国、台湾を中心とするアジアの化学教育関係者が集まる国際会議「第 6 回 NICE」(6th Network of Inter-Asian Chemistry Educators ; 7 月 29 日(水) ~ 31 日(金)) を日本科学未来館で開催した。

#### ③化学だいすきクラブ小委員会

化学だいすきクラブ小委員会では小学生から高校生をメンバーとする「化学だいすきクラブ」(会員約 3,000 名) 向けに、中・高校生を対象とした「Newsletter」を年 3 回、小学生向けの「化学だいすきキッズ」を年 2 回、編集・発行している。

また化学の理解増進、化学だいすきクラブ会員および読者層を広げるため、夏休みのイベントを開催している。平成 27 年度も「“活躍する化学” 見学ツアー@相田化学工業(都市鉱山)」、「大学研究室への招待@阪大 平尾研」、「10 年後の君たちの未来と化学@早大」、「化学だいすきキッズ in 早稲田を実施した。

#### ④実験体験小委員会

「夢・化学-21」委員会から年間 30 万円の助成を活動資金に、保育園や小学校、科学館、公民館、博物館などで出前実験教室を行っている。実験体験小委員会の新たな活動として委員自らの出前実験だけでなく、簡単・安全・楽しい化学実験をできる教員、実験講師の育成などにも取り組み、開催教室数を増やした。

#### ⑤クイズショー小委員会

「夢・化学-21」委員会、日本化学会、日本化学工業協会などが主催している「夏休み子ども化学実験ショー」で「なぜナニ化学クイズショー」を開催している。ホールなど施設だけでなく、平場のスペースでも開催できる演出を開発し、どこでも開催できる体制を確立した。クイズショーの他所展開第1弾として、96 春季年会実行委員会講演企画小委員会が主催で実施予定である。

#### ⑥その他の普及活動「化学の日」など

2013 年 10 月、日本化学会、化学工学会、日本化学工業協会、新化学技術推進協会と共同で 10 月 23 日を「化学の日」、10 月 23 日を含む一週間を「化学週間」と制定した。平成 27 年度はさらに広報活動による周知徹底、幅広い普及活動に取り組んだ。化学の日実験教室@南相馬(10 月 18 日)、「君たちの将来と化学の未来ー東大で過ごす化学の週末」(同)、「化学の日@鷗友学園女子中学高等学校」(10 月 23 日、24 日)、「少女少女のための講演会」(10 月 24 日、東京理科大学)「化学の日子ども化学実験ショー」(10 月 24 日～25 日、大阪京セラドーム)をはじめ各支部でも連携した活動を行った。このほか理研 DAY や大阪府立大学、大阪市立大学の主催する「高校化学グランドコンテスト」にも共催、協賛した。また科学技術振興機構主催のサイエンスアゴラ 2015 (11 月 13 日～15 日)に 2 ブースを出展(普及・交流委員会、実験体験小委員会)、参加者特別賞を受賞した。参加者は合計約 700 名であった。

#### 4) 化学グランプリ・オリンピック委員会

化学グランプリ 2015 は 7 月 20 日(月・海の日)、全国の 66 会場で一次選考試験を実施した。参加者は年々増加しており、第 17 回目の今回は 3,565 名が参加した。一次選考のなかから成績上位者 70 名が 8 月 21 日、22 日の 2 日間、名古屋大学で実験試験をともなう二次選考に進み、大賞 5 名、金賞 15 名、銀賞 20 名、銅賞 30 名が決定した。

またアゼルバイジャン・バクーで開催されていた第 47 回国際化学オリンピックで日本代表生徒は金 2、銀 2 メダルと全員がメダルを獲得した。今大会には世界の 75 カ国・地域から 292 名の生徒が参加し、理論試験、実験試験で化学の知力を競ったほか、各国代表との国際交流、ベトナム文化の見学、体験した。

第 48 回国際化学オリンピックジョージア大会(2016 年 7 月 23 日～8 月 1 日)には 2015 化学グランプリ二次選考進出者から 19 名および支部推薦 3 名の計 22 名をの代表候補に認定しており、合宿、選抜試験を経て最終的に 4 名の日本代表を決定、国際化学オリンピックに派遣する予定である。

#### 9. 支部事業

学術の振興を図る事業として、支部研究発表会、講演会などを、また、化学知識の普及と人材の育成のための事業として、環境安全講習会、中学・高校生のための化学講座、全国高校化学グランプリ、出前授業、化学クラブ研究発表会などを、7 支部(北海道、東北、関東、中部、近畿、中国四国、九州)でそれぞれ実施した。

#### 10. 部会事業

コロイドおよび界面化学部会、情報化学部会、生体機能関連化学部会、バイオテクノロジー部会、有機結晶部会の 5 部会それぞれにおいて、学術の振興を図る事業として、討論会、シンポジウムなどを、また、化学知識の普及と人材の育成のための事業として、ニュースレターの発行、フォーラムの開催などを行った。



### 11. 化学情報センター

化学会発行図書、IUPAC 関連資料、共催・協賛の要旨集、国際会議、化学史関連資料の収集・保管を中心に、化学会編集刊行物の化学会ウェブサイトでのお知らせ、文献複写依頼対応、センター訪問者の対応を行った。

### 12. 収益事業（事務室賃貸）

テナント4団体（（公社）有機合成化学協会、（一社）情報処理学会、（一社）触媒学会、英国王立化学会への事務室の賃貸を継続した。尚、（公社）日本雪氷学会は2015年3月末で退去したため、新たなテナントを募集中。

## II. 会員の状況

会員種別	2015年 2月末	平成27年度中								2016年 2月末	年度内 増減
		入会内訳			退会内訳				変更 修正		
		新入会	復帰	入会計	退会	死亡	除籍	退会計			
個人正会員	20,485	427	16	443	1,235	111	1,206	2,552	1,656	20,032	-453
学生会員	6,108	2,588	5	2,593	875	1	99	975	-1,749	5,977	-131
教育会員	1,723	76	0	76	107	0	80	187	90	1,702	-21
名誉会員	78	0	0	0	1	4	0	5	3	76	-2
法人正会員	451	4	0	4	12	0	0	12	0	443	-8
公共会員	432	1	1	2	11	0	0	11	0	423	-9
賛助会員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	29,277	3,096	22	3,118	2,241	116	1,385	3,742	0	28,653	-624

## III. 役員状況

[2015年5月25日就任時]

会長 榊原 定征（東レ㈱）

副会長 黒田 一幸（早稲田大理工） 筆頭副会長、会務部門長、職員人事・財務担当

浅見 正弘（富士フイルム㈱） 産学連携部門長、財務担当

小坂田耕太郎（東工大資源化） 教育・普及部門長、研究交流副部門長

佐藤 穂積（J S R㈱） 産学連携副部門長、職員人事担当

茶谷 直人（阪大院工） 研究交流部門長、会務副部門長、学術情報副部門長

	辻 康之 (京大院工)	学術情報部門長
理事	相田美砂子 (広島大院理)	赤木 和夫 (京大院工)
	尾関寿美男 (信州大理)	角田 範義 (豊橋技科大院工)
	川合 眞紀 (理化学研究所)	喜多村 昇 (北大院理)
	桑畑 進 (阪大院工)	澤口 孝志 (日大理工)
	塩野 毅 (広島大院工)	寺境 光俊 (秋田大院工)
	杉本 直己 (甲南大先端生命工)	関谷 博 (九大院理)
	高田十志和 (東工大院理工)	辻 良太郎 (株カネカ)
	中西 英二 (味の素株)	中西 暢 (信越化学工業株)
	長谷川哲也 (東大院理)	横山 泰 (横国大院工)
	渡利 広司 (産総研)	
常務理事	川島 信之 (日本化学会)	
監事	尾嶋 正治 (東大放射光研)	河野 裕彦 (東北大院理)
	竜田 邦明 (早稲田大理工)	千葉 泰久 (宇部興産株)

#### IV. 重要な契約の締結 特になし

#### V. 内部統制に関する事項

内部統制に関して、次の規程を整備し、法人運営を行っている。

- (1) 理事・使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制に関する規程
  - ・理事の職務規程：主として代表理事及び業務執行理事の職務に関する規程
  - ・役員報酬規程：役員報酬等の支給基準に関する規程
  - ・積立資産取扱い規程：寄附金を原資として設定する積立遺産の取扱い方法の規程
- (2) 理事の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制のための規程
  - ・理事会運営規程：理事会の運営方法並びに代表理事及び業務執行理事等の職務の執行報告を理事及び監事が審議し、結果を議事録として残すこと等を定めた規程
  - ・情報公開規程：情報公開対象の資料の種類、保管及び閲覧等に関する規程
- (3) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制のための規程
  - ・リスク管理規程：リスクを防止し損失の最小化を図るためのリスク管理に関する規程
- (4) 理事の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制に関する規程
  - ・決裁規程：理事等の決裁に関する責任の範囲を明確化し、効率的な業務執行を図るための規程
  - ・事務局職制規程：事務局の組織、職位及び指揮命令系統に関する規程
- (5) 監事の監査が実効的に行われることを確保するための体制のための規程
  - ・監事の職務規程：監事の職務に関する規程